

メッセージアウトライン

ガラテヤ 5：16~18「御霊によって歩む」

「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」(16)

「肉」とは罪の支配下にある自分の生まれながらの性質のことである。最初に造られた人間アダムが罪を犯して以来、その子孫であるすべての人間は罪の支配下にあり、神に逆らい自己中心的に歩んでいる。教会でこの肉どうしがぶつかり互いにかみ合ったり食い合ったりする。ガラテヤ教会もそのような状況にあったのだろう。 5:14 クリスマン生活において、私たちが本当に自由であろうとするならばこの肉の力に打ち勝たなければならない。その解決としてパウロは「御霊によって歩みなさい」と教える。

御霊とは三位一体の第三位格の御霊なる神のことで、私たちがイエス・キリストを救い主と信じた時に私たちのうちに住んで下さり、私たちの信仰の歩みを守り、導き、助けて下さるお方である。 3ヨハ 14:16~17

ペンテコステの日以来、イエス・キリストを救い主と信じ受け入れるすべての信仰者にこの聖霊が与えられる時代となっている。 使徒 1:4~5,8,2:1~4

肉の欲望の奴隷とならない唯一の道はこの御霊によって歩むということなのである。

「なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです」(17)

これはすべてのクリスマンが実感していることであろう。この戦いは私たちの主イエス・キリストがこの地上に王の王、主の主として来られ、私たちの救いが完成する時まで続く。しかしこの肉との戦いにおいて、パウロは「御霊によって歩みなさい」とすすめるのである。

私たちクリスマンは、イエス・キリストを信じた時に与えられた御霊に導かれ、より頼み、助けられつつ信仰生活を歩むことが大切である。私たちは御霊の導き、助けをいつも祈り求めていきたい。

「しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません」(18)

私たちが御霊を受けたのは信仰をもってイエス・キリストを信じたからであり、決して律法を守り行ったからではない。それで私たちがこの御霊に導かれているならば律法の束縛の下にはいないということがわかる。

さらに御霊は私たちがかみ合い、食い合うのではなく、互いに愛し合うことができるようにして下さり、そのようにして 14 節でも言われているように、かえって律法を全うすることができるようにして下さるのである。

私たちは日々の信仰生活において常に御霊により頼み、導かれて歩んでいくことが大切である。そこにこそ生き生きとした勝利あるクリスマン生活がある。